

考古学研究室報告

第 43 集

上天草市所在遺跡の調査報告 4

千崎古墳群第 6 次調査報告

2007 年度 考古学研究室の足跡

2 0 0 8

熊本大学文学部考古学研究室

表紙写真：千崎古墳群5号墳横穴式石室
裏表紙写真：千崎古墳群5号墳出土勾玉

序 文

2007年、熊本大学考古学研究室にとって、とても大きな出来事が2つあった。

1つは、考古学研究室研究報告の第2集を刊行したことだ。『阿蘇における旧石器文化の研究』と題し、熊本県西原村所在の河原遺跡で1996年から継続的に行ってきた調査の成果が総括されたのだ。正式報告書をまとめるという仕事は、発掘調査に携わった学生がどんどん卒業していく大学ではたいへん困難なことであるけれど、大学院博士課程の芝康次郎君を中心にそれを成し遂げてくれたことはとてもうれしいことだった。同時に、これを次につなげていかなければならないと強く思った。

2つは、日本考古学協会の秋季大会を開催したことだ。「九州系横穴式石室の伝播と拡散」および「列島初期農耕史の新視点」という2つの分科会をもったが、晴れわたった秋空のもと、500名余りの参加者を得て何とか無事に終えることができた。それはひとえに熊本県内の自治体および考古学関係者、研究室所属の学生諸氏のおしめない協力があつたおかげである。私にとっては、大学教員・学生と地元自治体の文化財担当者が1つのものを作り上げることの大切さをあらためて知る場ともなった。

さて、本書には熊本県上天草市に所在する千崎古墳群の第5次・第6次調査の成果が盛り込まれている。第5次調査は昨年度に実施したものだが、その際、5号墳の横穴式石室については転落石の除去や土層の検討、玉類の検出作業に手間取り、実測図の作成ができなかった。今年度の第6次調査では、これに加えて、5号墳石室の墓壇構造および10号墳箱式石棺の棺外副葬状況の解明を目指した。こうした一連の作業によって、今年度で千崎古墳群の調査に一区切りをつけるつもりであったが、まだ一部に解決すべき課題が残されてしまった。次年度以降に期したいと思う。

上天草市での調査は、市史編纂事業にともなって2003年度に開始したから、もう5年目になる。市史編纂事業は昨年度に終了したが、千崎古墳群にかんしては調査が未完了であったため、今年度は研究室を主体としての調査を実施させていただいた。そうした事情にもかかわらず、これまでと変わりのないさまざまなお配慮をいただいた上天草市教育委員会、地元維和島の皆様に厚くお礼を申し述べたい。

2008年3月1日

杉 井 健

上天草市所在遺跡の調査報告 4

千崎古墳群第6次調査報告



現地説明会風景

例 言

1. 本書は熊本県上天草市大矢野町維和千崎3080・3081番地他に所在する千崎古墳群の第6次調査報告である。
2. 調査期間は2007年9月10日から10月6日までの計27日間である。
3. 調査は熊本大学文学部考古学研究室を主体とし、上天草市教育委員会の協力を得て実施した。調査には科学研究費補助金（基盤研究C、研究代表者杉井健）の一部を使用した。
4. 調査担当者は杉井健（熊本大学文学部准教授）と山野ケン陽次郎（同文学研究科大学院生）である。
5. 千崎古墳群の調査はこれまでに5次にわたって行われているが、以下にその調査年月と調査主体を記す。

第1次調査	1955年8月、9月	熊本県立玉名高等学校考古学部
第2次調査	2003年4月、2004年3月、4～5月	大矢野町教育委員会・上天草市教育委員会
第3次調査	2004年8～9月	上天草市教育委員会
第4次調査	2005年9月	上天草市教育委員会
第5次調査	2006年8～10月	上天草市教育委員会
6. 本書におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は国土座標（2系）の北を示す。
7. 横穴式石室の左右は、羨道から玄室をみた場合での左右で示す。
8. 報告書抄録に示した北緯と東経は、測量基準点S E01の世界測地系による数値である。
9. 土層名の色調は『新版標準土色帖』による。
10. 調査および合宿、整理作業の実施にあたっては、以下の諸氏・諸機関から多くのご協力とご援助を賜った。
鬼塚正二（上天草市教育委員会）、山崎勝安（伐採）、逸見泰久（熊本大学合津マリンステーション：宿舎）、志賀智史（九州国立博物館：顔料分析）、柳沢一男（宮崎大学教育文化学部）、清家章（高知大学人文学部）、高木恭二（宇土市教育委員会）、池田朋生・江本直・帆足俊文（熊本県教育庁文化課）、山崎純男（福岡市教育委員会）、福田正文、熊本古墳研究会、維和島住民の方々、上天草市大矢野公民館
11. 調査参加者は以下の通りである。
甲元眞之・木下尚子・杉井健（熊本大学教員）、芝康次郎（同社会文化科学研究科博士課程3年生）、南健太郎（同社会文化科学研究科博士課程2年生）、神川めぐみ（同社会文化科学研究科博士課程1年生）、仙波靖子・三好栄太郎（同文学研究科修士課程2年生）、有馬絢子・山野ケン陽次郎（同文学研究科修士課程1年生）、一本尚之・長田幸子・小濱麻依子・倉元慎平・高椋浩史（同文学部4年生）、岩田千穂・高松あゆみ・堤絵莉子・弘中正芳・淵崎奈緒美・松嶋倫代（同文学部3年生）、梶友香里・下條絵美〔整理作業〕・田上慶・筒由香里・松崎友理（同文学部2年生）、森幸一郎（佐賀県教育委員会）、前田真由子（熊本県立装飾古墳館）、荒田敬介（岡山大学社会文化科学研究科修士課程）
12. 写真撮影については、調査参加者全員が担当した。
13. 本書の監修は杉井健が、編集は山野ケン陽次郎・有馬絢子が担当した。執筆分担については執筆者名をそれぞれの文末に示した。

本文目次

一	八代海周辺の横穴式石室と横穴墓	1
1.	はじめに	1
2.	八代海周辺の横穴式石室と横穴墓	1
3.	まとめ	7
二	調査経過	8
1.	過去の調査（第1次～第5次調査）	8
2.	第6次調査	8
3.	今後の検討課題	9
三	5号墳の調査成果	10
1.	過去の調査経過（第2次～第4次調査）	10
2.	主体部の調査経過（第5次・第6次調査）	10
3.	第6次調査における調査区の設定	11
4.	横穴式石室の構造	12
5.	横穴式石室の遺物出土状況	21
6.	出土遺物	22
四	10号墳の調査成果	24
1.	過去の調査	24
2.	調査目的	24
3.	調査区の設定と調査経過	25
4.	調査成果	25
五	まとめ	33
1.	調査成果	33
2.	古墳群の評価と今後の課題	34

図版目次

図版1	1	5号墳調査前の様相（東から）
	2	5号墳石室内の転落石（俯瞰）
	3	5号墳石室全景（南から）
図版2		5号墳石室俯瞰
図版3	1	5号墳玄室前壁（北から）
	2	5号墳羨道右側壁（西から）
	3	5号墳羨道左側壁（東から）
図版4	1	5号墳玄室奥壁（南から）
	2	5号墳玄室右側壁（西から）
	3	5号墳玄室左側壁（東から）
図版5	1	5号墳石室の墓壇ライン（北から）
	2	5号墳石室の墓壇の様相（1：墓壇東断ち割り区南壁、2：墓壇西断ち割り区南壁、3：墓壇北調査区石室主軸線西壁、4：玄室内断ち割り区南壁）
図版6	1	5号墳石室屍床内玉類出土位置（竹串が出土位置を示す）
	2	5号墳石室屍床内玉類出土状況
	3	5号墳石室屍床内土層断面（西から）
図版7	1	10号墳上段墓壇ライン検出状況（南から）
	2	10号墳下段墓壇ライン検出状況（南から）
図版8	1	10号墳北側蓋石破片散布状況（1：棺内、2：棺外西長側石付近）
	2	下段墓壇埋土上面石材片検出状況（南西区、西から）
	3	下段墓壇埋土上面石材片検出状況（北西区、北から）
図版9	1	5号墳出土玉類
	2	10号墳上段墓壇埋土内より出土した砂岩石材片

挿 図 目 次

第1図	八代海周辺の横穴式石室と横穴墓分布図	(瀨崎製図)	2
第2図	千崎古墳群の古墳分布図	(長田製図)	8
第3図	5号墳基準点の位置関係	(田上製図)	9
第4図	5号墳調査区設定図	(梶製図)	11
第5図	5号墳石室実測図	(山野製図)	13~14
第6図	5号墳石室の屍床仕切り石		15
第7図	5号墳石室の羨道床面		15
第8図	5号墳石室屍床内埋土土層断面図	(松嶋製図)	16
第9図	5号墳調査区平面図・断面図	(堤製図)	19
第10図	5号墳石室内遺物出土状況図	(松崎製図)	21
第11図	5号墳出土玉類実測図	(筒製図)	22
第12図	第1次調査時の10号墳		24
第13図	10号墳棺身全景		24
第14図	10号墳調査区設定図(左:9号墳、右:10号墳)	(弘中製図)	25
第15図	10号墳調査区平面図・断面図	(田上製図)	26
第16図	下段墓壙埋土上面石材片検出状況図	(有馬製図)	27
第17図	10号墳北側蓋石接合状況(左:表面、右:裏面)		28
第18図	使用場所不明石材		28
第19図	北側蓋石破片および使用場所不明石材片散布状況図	(有馬製図)	28
第20図	棺身の加工痕	(岩田製図)	29
第21図	棺蓋の加工痕	(岩田製図)	30
第22図	工具痕のある石材片(a・b)接合状況図	(芝製図)	31
第23図	石材片a・bの工具痕		31
第24図	土器実測図	(高松製図)	32
第25図	土器(左:外面、右:内面)		32

表 目 次

第1表	八代海周辺の横穴式石室と横穴墓地名表(1)	(長田作成)	3
第2表	八代海周辺の横穴式石室と横穴墓地名表(2)	(長田作成)	4
第3表	八代海周辺の横穴式石室と横穴墓地名表(3)	(長田作成)	5
第4表	2007年設置測量基準点の現場座標	(杉井作成)	9
第5表	2007年設置測量基準点の国土座標	(杉井作成)	9
第6表	5号墳石室各部位の標高	(堤作成)	18
第7表	勾玉計測表	(筒作成)	23
第8表	白玉計測表	(筒作成)	23